



令和6年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和5年8月8日

上場会社名 株式会社 御園座 上場取引所 名
 コード番号 9664 URL http://www.misonoza.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮崎敏明
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員総務経理部長 (氏名)島田治彦 (TEL) (052)222-8202
 四半期報告書提出予定日 令和5年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和6年3月期第1四半期の業績(令和5年4月1日~令和5年6月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
6年3月期第1四半期	858	169.5	0	—	△2	—	△4	—
5年3月期第1四半期	318	△51.9	△129	—	△132	—	△164	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
6年3月期第1四半期	△0.91	—
5年3月期第1四半期	△32.98	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
6年3月期第1四半期	5,984	4,384	73.3
5年3月期	6,316	4,384	69.4

(参考) 自己資本 6年3月期第1四半期 4,384百万円 5年3月期 4,384百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
5年3月期	—	—	—	0.00	0.00
6年3月期	—	—	—	—	—
6年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和6年3月期の業績予想(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,080	12.8	100	—	90	—	70	—	14.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	6年3月期1Q	4,984,500株	5年3月期	4,984,500株
② 期末自己株式数	6年3月期1Q	5,194株	5年3月期	5,194株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	6年3月期1Q	4,979,306株	5年3月期1Q	4,979,306株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
3. その他	8
(継続企業の前提に関する重要事象等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、消費者物価は上昇するも景気及び個人消費は緩やかに回復している兆しがみられる状況で推移いたしました。

当社におきましては、徹底した感染拡大予防対策を継続し、お客様と公演関係者の安心・安全を最優先に考え、安心してご来場いただけるよう努め、その中で引き続きお客様の嗜好に合わせた公演の実現、観客動員の維持も図りながら、注意深く上演しております。

今後につきましても、感染拡大の防止策を徹底し、社会経済活動のレベルが段階的に回復する中、徐々に公演数及び観客動員の拡大を図りながら、お客様に喜んで頂ける公演を増加させていく予定であります。

当社は、以下の通り、令和5年4月から6月までに上演予定であった全ての公演を10種類、上演日数として51日間、上演回数として85回の実施を致しました。

<当第1四半期累計期間の上演実施作品>

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
陽春花形歌舞伎	4月1日～22日	22	40
ミュージカル『青春 POP ROCK ルーザーヴィル』	4月26日～30日	5	8
『ザ・ミュージック・マン』	5月6日～7日	2	3
純烈 御園座公演 スーパー・ササダンゴ・シアター	5月20日～21日	2	4
坂東玉三郎コンサート『あなたへ歌を』	5月27日～28日	2	2
ミュージカル『エリザベス・アーデンVSヘレナ・ルビンスタイン-WARPAINT-』	6月2日～4日	3	5
ミュージカル『She Loves Me』	6月8日～10日	3	5
少年忍者『俺たちのBANG!!!～大劇場を占拠せよ～』	6月13日～17日	5	8
『ザ・ニューズペーパー』	6月18日	1	1
御園座6月公演 松平健 辰巳ゆうと 桂米團治	6月21日～26日	6	9
合計		51	85

(上演日数には休演日も含みます)

<公演中止となった当事業年度の上演予定作品>

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
該当なし		—	—
合計		—	—

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は、8億5千8百万円（前年同期は3億1千8百万円）となりました。

売上高は増加し、利益面では営業利益0百万円（前年同期は営業損失1億2千9百万円）、経常損失2百万円（前年同期は経常損失1億3千2百万円）、四半期純損失4百万円（前年同期は四半期純損失1億6千4百万円）となり、大幅に改善いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、8億9千9百万円となり、前事業年度末に比べ2億7千9百万円の減少となりました。この主な要因は、現金及び預金が3千4百万円減少し、売掛金が2億2千1百万円減少したことによるものであります。固定資産の残高は、50億8千4百万円となり、前事業年度末に比べ5千2百万円の減少となりました。この主な要因は、建物及び構築物が3千万円、機械及び装置が2千2百万円減少したことによるものであります。この結果、総資産は、59億8千4百万円となり、前事業年度末に比べ3億3千2百万円の減少となりました。

(負債の部)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、5億7千8百万円となり、前事業年度末に比べ2億8千1百万円の減少となりました。この主な要因は、買掛金が2億6千8百万円減少、未払金が3百万円増加、未払法人税等が5百万円増加、前受金が4百万円増加したことによるものであります。固定負債の残高は、10億2千1百万円となり、前事業年度末に比べ5千万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金が5千万円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、16億円となり、前事業年度末に比べ3億3千1百万円の減少となりました。

(純資産の部)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、43億8千4百万円となり、前事業年度末に比べ0百万円の減少となりました。この主な要因は、利益剰余金が4百万円減少、その他有価証券評価差額金4百万円増加がしたことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和6年3月期の業績予想につきましては、当第1四半期累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点において令和5年5月10日付「令和5年3月期決算短信」にて発表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和5年3月31日)	当第1四半期会計期間 (令和5年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	823,987	789,576
売掛金	257,672	36,008
貯蔵品	1,100	972
未収入金	50,067	33,368
その他	45,995	39,420
流動資産合計	1,178,823	899,345
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,334,780	2,304,408
機械及び装置（純額）	539,020	516,273
土地	2,124,656	2,124,656
その他	77,418	75,629
有形固定資産合計	5,075,875	5,020,967
無形固定資産		
無形固定資産	12,591	10,869
投資その他の資産		
投資有価証券	43,399	47,469
その他	6,427	6,167
貸倒引当金	△739	△739
投資その他の資産合計	49,087	52,898
固定資産合計	5,137,554	5,084,734
資産合計	6,316,377	5,984,080

(単位：千円)

	前事業年度 (令和5年3月31日)	当第1四半期会計期間 (令和5年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	412,480	144,139
1年内返済予定の長期借入金	224,181	216,684
未払金	24,386	28,052
未払法人税等	—	5,742
前受金	156,253	160,608
その他	43,181	23,577
流動負債合計	860,483	578,804
固定負債		
長期借入金	800,000	750,000
繰延税金負債	257,484	259,615
退職給付引当金	4,962	4,882
その他	8,927	6,708
固定負債合計	1,071,374	1,021,206
負債合計	1,931,858	1,600,010
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,271,937	2,271,937
資本剰余金	2,137,621	2,137,621
利益剰余金	2,058	△2,461
自己株式	△39,817	△39,817
株主資本合計	4,371,800	4,367,280
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12,718	16,789
評価・換算差額等合計	12,718	16,789
純資産合計	4,384,519	4,384,069
負債純資産合計	6,316,377	5,984,080

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年6月30日)
売上高	318,454	858,141
売上原価	300,494	693,496
売上総利益	17,959	164,644
販売費及び一般管理費	147,482	164,263
営業利益又は営業損失(△)	△129,522	381
営業外収益		
受取配当金	1,063	1,280
その他	394	356
営業外収益合計	1,458	1,636
営業外費用		
支払利息	3,572	2,919
その他	654	1,243
営業外費用合計	4,227	4,163
経常損失(△)	△132,290	△2,145
特別損失		
公演中止損失	22,370	-
臨時休業等による損失	14,266	-
特別損失合計	36,637	-
税引前四半期純損失(△)	△168,928	△2,145
法人税、住民税及び事業税	244	244
法人税等調整額	△4,957	2,130
法人税等合計	△4,712	2,374
四半期純損失(△)	△164,215	△4,520

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類相当から5類に変更になり、社会経済活動は正常化に向かいつつあります。こうした中、当社は感染対策の徹底を図り、当第1四半期累計期間において予定していた公演をすべて順調に上演することが出来ました。当第1四半期累計期間の売上高は858百万円と、前年同期と比較して大きく増加し、営業損益についても黒字転換いたしました。

しかしながら、営業損益の黒字額は僅かであり、経常損益については赤字が継続していることから、新型コロナウイルス感染症の再拡大の可能性も含め業績予想の達成は予断を許さない状況であると考えています。そのため、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が続いているものと総合的に判断しています。

一方、当社は感染対策を十分に行った上で公演を継続しており、当第1四半期会計期間末の現金及び預金の残高水準や資金計画の状況を踏まえれば当該事象の解消が十分実現できるものと考えております。

以上の通り、重要事象等の解消は可能と考え、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」は記載いたしておりません。